

緑化だより

No.162 令和 2年 7月号



ミゾカクシ

- 季節の花(ツユクサ)
- 昆虫の話
(樹液酒場のいぶし銀・カナブン)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(8-1))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

7月の土、日、祝日は午後5時まで開園します。



ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ツユクサ

「月草(つきくさ)の移ろひやすく思へかも 我(あ)が思(も)ふ人の言(こと)も告げ来(こ)ぬ」

大伴坂上家之大嬢 万葉集 卷4-0583

これを訳しますと

「露草(つゆくさ)で染めた衣が、すぐ色落ちして、変わりやすいように、私も移り気があるように思われているのでしょうか、想っているあの人が何も言ってこないのは」

この歌は天平4年(738年頃)、坂上郎女(さかのうえいらつめ)の長女の坂上大嬢が、想い人である大伴家持(おおともやかもち)に贈った歌です。後に坂上大嬢は大伴家持の正妻となります。

露草の古名は月草です。花卉の青い色が着きやすいことから「着草」とも言われます。

古代の人は露草の青い色が好みで、花の汁衣に摺り付けて美しく染めましたが、その着物は水にぬれると色あせて落ち易いことから、万葉の歌人は人の心の移ろいやすさや、この世のはかなさにたとえて詠っています。

江戸時代につくられた日本最初の植物図鑑『本草図譜』によりますと、ツユクサは「鴨跖草(あふせきそう)。つゆくさ、尋常(つね)のもの」と記載されています。鴨跖とは「鴨のあしあと」という意味で花の形から来た中国名です。「つねのもの」とはどこにでも生えているからでしょう。

ツユクサはツユクサ科ツユクサ属で、全国各地の道端や草地に生えている1年草です。初夏から秋、約2cmの鮮やかな青い花を早朝に咲かせて午後にはしぼんでしまいます。花卉は3枚あり、上部の2枚は青くて大きく、下部の1枚は白くて小さいです。花の色、形から蛍草(ほたるぐさ)、移花(うつしばな)、青花(あおばな)の別名があります。

江戸中期に中国より渡来したツユクサの栽培変種に「オオボウシバナ」があります。ツユクサより大型で高さ1メートル、花は4~5cmで花卉の縁はやや縮れています。花卉は京友禅の下絵を描く染料になります。下絵の色素が残らず仕上がりがきれいなため重宝されます。滋賀県草津市を中心に栽培加工され、草津市の市の花に指定されています。(上村)



ツユクサ



オオボウシバナ

昆虫の話

樹液酒場のいぶし銀・カナブン

7月、カブトムシやクワガタムシを採集に行くと、キラキラと輝く甲虫が樹液に集まっている場面を目にします。それが夏の雑木林の常連、カナブンです。

広島では、赤銅色から緑色まで多様な色彩のカナブン、鮮やかな緑色をしたアオカナブン、全身黒塗りのクロカナブンの3種を観察することができます。いずれも独特の金属光沢に身を包んでおり、樹液の周りを鮮やかに彩ります。カナブンはその姿からコガネムシのなかまとしばしば混同されます。どちらも鮮やかな金属光沢をしていますが、様々な点で異なります。コガネムシは成虫・幼虫ともに生きた植物を食べますが、カナブンの成虫は果物や樹液、幼虫は腐植物を食べます。さらに特徴的なのはその飛び方で、コガネムシは鞘翅と後翅を両方広げて飛びますが、カナブンを含むハナムグリのなかまは鞘翅を閉じたまま、後翅だけを開き高速で飛びます。コガネムシとカナブンを捕まえて高く放り投げると、コガネムシは落ちてしまいますがカナブンは飛んで行くため簡単に見分けることができます。



樹液に集まるカナブン

かつて樹液に群がるカナブンは夏の風物詩で、自由研究の標本箱を埋め尽くしたものでした。カナブンはどんなに雑に作られた標本でも色褪せることはありません。これは鞘翅の色が色素ではなく、表面の微小な構造が生み出す構造色に由来するからです。この構造色は日光を浴びても色あせない着色方法として、車の塗料などに応用されています。比較的によく見かける昆虫ですが、新技術へつながる意外な秘密が隠されているのです。もし夏の山でカナブンを見かけたら、ぜひ観察してみてください。(市森林公園こんちゅう館 逸見)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(8-1)

シャクナゲロードからしばらく歩くと出合いの広場に着きます。ケヤキのツリーサークル、藤棚、池のある広場です。タイル張りの明るい広場ですが、東～南～西側は大きな樹木に囲まれ、山からの水が池に集まっています。そのため夏も涼しく、広場から池に向かうスロープの壁面を中心に、ここでは約20種類のコケが観察できます。

ヘラハネヂレゴケ(セン類)は、日当たりのよいコンクリートや石垣に生育し、街の中でも普通に見られます。

乾燥しているとき、葉はねじれるように巻き込みますが、雨が降ったあとは、長さ3～4mmの小さな葉が開いています。葉は舌のような形で、葉先から中肋が伸びて飛びだし、長い毛のような透明尖があります。植物体は小さいのですが、胞子体の柄は2～3cmと長く、円筒形でやや曲がった上向きの蒴をつけます。春、4月頃につけた蒴は夏には枯れてしまいます。

和名の由来はヘラのような葉の形と、乾燥したときのねじれる様子からつけられました。(山根)



ヘラハネヂレゴケ(乾燥したとき)



ヘラハネヂレゴケ(湿潤なとき)

研修会のご案内

- 7月3日(金)『7月の自然探勝』
夏の森林植物を観察しよう
※ 自由参加、無料
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：植物研究家
埜田 宏
- 7月5日(日)『夏のきのこ教室』
梅雨にもたくさんのきのこが・・・
※ 自由参加、無料、採集用かご持参
10:00～12:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章
- 7月19日(日)『森と昆虫』ひろしまはなのわスポットイベント
昆虫の生態や採集方法を学び、屋外で採集しよう
※ 要予約(先着40名) 残りわずか、無料、採集用具持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛
- 7月19日(日)・26日(日)『夏休み自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作
※ 自由参加、随時受付、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センター ボランティア
ふれあい湧
- 7月24日(金・祝)『藍のトントン染め』
藍の生葉をトントンたたいてハンカチを染めよう
※ 要予約(先着10組)、材料費500円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンスインストラクター
山縣 圭子
- 7月26日(日)『昆虫標本作り入門』
昆虫の標本作りを学びましょう
※ 要予約(先着10組)残りわずか、材料費1,000円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、密集・密接を避けるようご注意ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

・陶友会 陶芸作品展

～ 7月10日(金)

・デコラティブペインティング展

～メリールーの仲間たち～ 7月21日(火)～ 8月23日(日)

(パネル展示)

・愛鳥週間原画コンクール

入賞作品展 7月7日(火)～ 8月4日(火)



昨年の「メリールーの仲間たち」より

～ 森林公園 イベント情報 ～

7月26日(日) 9:00～15:00

スイカ割り大会

場所：(芝生広場)休憩所

小学生以下の子どもとその保護者2人1組で協力して
スイカ割りに挑戦し、割れたらみんなで試食する。

- ・午前の部 10:30～12:00 (受付 9:00～)
- ・午後の部 13:30～15:00 (受付 12:30～)



「愛鳥週間原画コンクール
入賞作品展」より